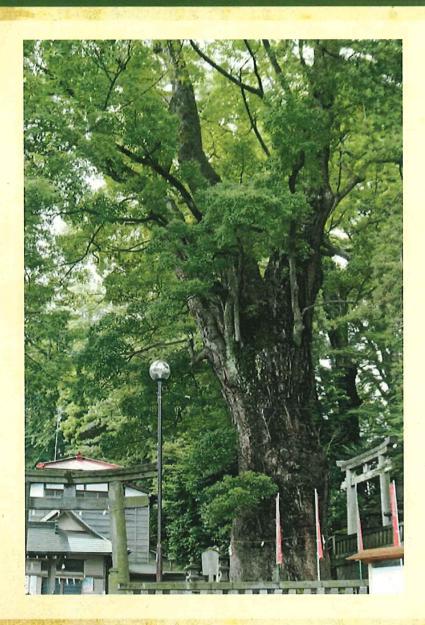
# 31 **五所神社の楠**

### <sub>町指定</sub> 天然記念物



種 別 天然記念物

員 数 1 本

所在地 湯河原町宮下356番地 (五所神社境内)

登 録 町指定文化財 平成9年5月1日

規 模 胸高周囲8m20cm 樹高36m 樹齢600年 (推定)

五所神社の鳥居をくぐると石段の右側にあります。県下でもまれに見る古・巨木です。樹高、幹の大きさともに湯河原町の樹木の中でも最大のものです。幹はまっすぐに伸び、枝の張りもよく、境内を広く被うように四方に枝を伸ばしています。神奈川県の名木100選の一つに選ばれています。

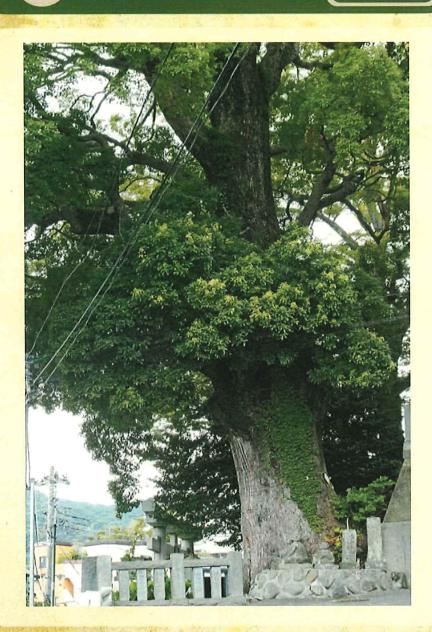
Name: Gosho Jinja no Kusunoki, "Camphor Tree at Gosho Shrine" Designated Natural Monument Protected Species (one tree) Location: 356 Miyashita, Yugawara (C/O of Gosho Shrine) Designated as Natural Monument Protected Species on 1st May 1997 by Yugawara Town

Dimension: Trunk 8m20cm Height 36m Estimated tree age is about 600 years

This Camphor tree is rare in Kanagawa prefecture in age and size. It has been selected as one of the top 100 year old trees of historic interest in Kanagawa prefecture. It is also known as the biggest tree in Yugawara.

## 32 うぶすなはちまんじんじゃ くすのき 産土八幡神社の楠

## 町指定 天然記念物



種 別 天然記念物

員 数 1 本

所在地 湯河原町城堀217番地 (産土八幡神社境内)

登 録 町指定文化財 平成9年5月1日

見 模 胸高周囲6m30cm 樹高25m 樹齢600年 (推定)

産土(うぶすな)八幡神社の石段の右手に樹形の美しい、推定樹齢600年の老大木があります。五所神社の楠に比べ目立たない存在ですが、 樹齢、木の大きさともに湯河原町を代表する巨木です。

Name: Ubusuna Hachiman Jinja no Kusunoki, "Camphor Tree at Ubusuna Shrine"

Designated Natural Monument Protected Species (one tree) Location: 217 Shirohori, Yugawara (C/O of Ubusuna Shrine) Designated as Natural Monument Protected Species on 1st May

1997 by Yugawara Town Dimension: Trunk 6m30cm Height 25m

Differsion . 11tunk offisochi Height 25 in

To the right side of the stone steps at the shrine, you can see this beautiful large tree which is presumably 600 years old.

# 33 五郎神社の本殿

町指定 建造物



種 別 建造物

員 数 1 棟

所在地 湯河原町鍛冶屋725番地 (五郎神社)

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規 模 一間社流造

桁行 約2m13cm 梁間 1m91cm

向拝出 約1m58cm

年 代 17世紀後期

五郎神社は、湯河原町の東北部、吉浜から西北に入る谷戸の北側に位置しています。南に段傾斜した境内は上下2段になり、前方も広場状になっています。境内には楠の大木が多く、小字を宮の森といいます。現在の祭神は金山彦尊(かなやまひこのみこと)、面足尊

(おもだるのみこと)の2柱です。

本殿は、上段奥に建ち、前方の3間に2間の拝殿と接続していますが、もとは独立し、様式上から17世紀後期ごろのものとみられます。一間社流造(いっけんしゃながれづくり)で三方に束で受けた刎高欄(はねごうらん)付の切目縁(きりめえん)を廻し、正面は幣袖(へいじく)付板扉両開きになっています。

全体として木太く、妻など派手な所が見られ江戸初期風の意匠 が凝らされています。

Name: Goro Jinja no Honden, "Main hall at Goro Shrine"

Designated Cultural Property (one building)

Location: 724-2 Kajiya, Yugawara

Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004

by Yugawara Town

Building Style: Ikkensha-Nagare Ketayuki (length of beam) 2m13cm Harima (length of crossbeam) 1m91cm Constructed during late 17th Century

There are many Camphor trees surrounding the shrine called Miyanomori.

The old trees with thick trunks are seen at the front of the building, which is characteristic of early Edo style.

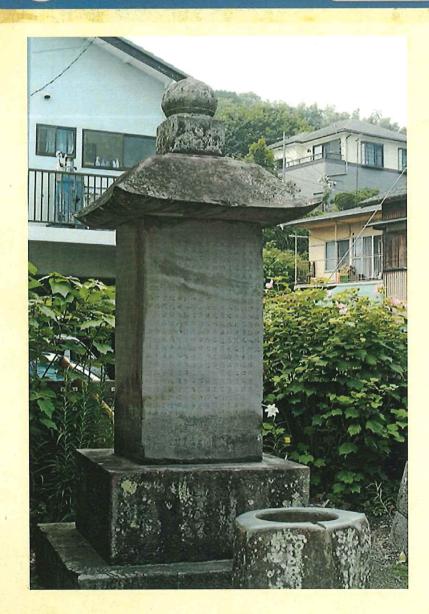
Goro Shrine enshrines Kanayamahiko God in Shinto religion and Omodaru God in Buddhism.

# 34

## こみちじぞうどう めいわ 小道地蔵堂の明和2年の碑

#### 町指定

石造物



種 別 石造物

員 数 1 基

所在地 湯河原町吉浜1番地(小道地蔵堂)

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規 模 宝形屋根角柱型石碑

全高3m12cm 全幅1m56cm 全奥行1m56cm 碑面高1m43cm 碑面幅63cm 碑面奥行62cm

年 代 明和2年 (1765年) 2月

この明和2年(1765年)に建立された碑は、吉浜の東部、海岸近く にある通称小道地蔵堂と呼ばれる堂宇の西南側に位置しています。

この碑は、碑文が伝えるように小道中興開基量外器禅師の略伝及び 雪後操公の建搭の由来と源平盛衰記が記す石橋山の合戦に敗れた源頼 朝と従臣らが隠潜した小道地蔵堂の由来を受け継ぎ、頼朝による造 営、文永2年(1265年)の炎上と現地に移ったことなどの地蔵堂の縁 起を刻んでいます。

この碑は、英潮院地蔵堂(通称小道地蔵堂)の由来や当地方に伝承 される源頼朝説話などを物語る貴重な歴史資料と言えます。

Name :Komichi-Jizo-dō no Meiwa ni nen no Hi, "Monument of Komichi-Jizo-dō in 1765"

Designated Cultural Property (one stone monument)

Location: 1 Yoshihama, Yugawara

Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004

by Yugawara Town

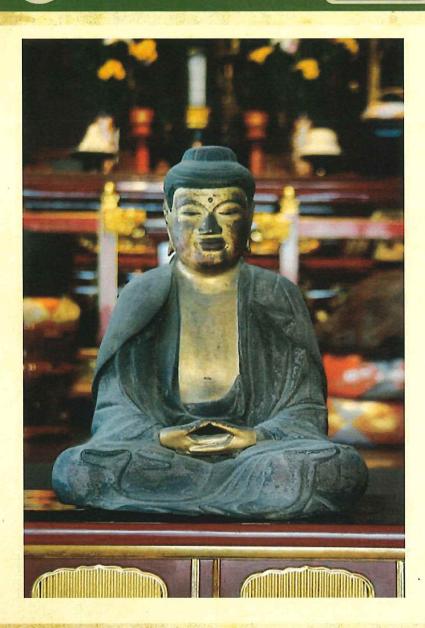
Dimension: Height 3m12cm Width 1m56cm Depth 1m56cm Face Dimension: Height 1m43cm Width 63cm Depth 62cm

Constructed on 1765

Kamakura *shogun*, Yoritomo Minamoto hid in Komichi-Jizo-dō. This building caught fire in 1265.

For this reason, it was moved to its current location.

This monument tells these stories.



種 別 彫刻等

員 数 1 躯

所在地 湯河原町鍛冶屋440番地 (瑞應寺)

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規模全高 37cm5mm

年 代 室町時代 (1439年または1469年頃)

この銅像釈迦如来坐像は、背面に陰刻名があり「己未七月九日 □阿弥」と記されています。干支に当てはめると西暦1439年また は1469年頃の制作になり、製作年から瑞應寺開山寛文9年(1669 年)以前のものであると推測されます。

像は、ふっくらとした頬を持ち、膝張りは肩幅に対してあまり広がらず、折り返しのある衣文など室町時代の特徴を備えていて、中世の数少ない銅像作例であることから極めて重要です。

Name: Zuioji no dōzō Shakanyorai-zō, "Seated Statue of

Shaka-Nyorai Made of Capper at Zuioji Temple" Designated Cultural Property (one bronze-statue)

Location: 440 Kajiya, Yugawara

Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004 by Yugawara

Town

Dimension: Height 37cm5mm

Constructed during 1439 or 1469 (Muromachi period)

This statue has round, full cheeks, and a perfectly folded *kimono* hem, which is characteristic of the Muromachi period. This statue is made of copper, which was rare in the middle ages.

#### 元禄13年10月伊豆山権現領と小田原藩との \*がふん 境論についての幕府の裁許状(裁許図)

町指定 古文書





種別古文書

所在地 湯河原町中央二丁目2番地1

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規 模 裁許状(表)及び絵図(裏) 横2m33cm×縦1m40cm

年 代 元禄13年(1700年)10月

伊豆山権現領の農民が、権現領内から石を切り出す小田原領農民を訴えたものです。万治年間(1656~1660年)伊豆山と熱海村との境界争いに下された裁許絵図をよりどころに、伊豆山権現領と小田原領との境が定められることになりました。この境界がそのまま伊豆国と相模国の国境とされました。

この裁許で門川(現千歳川)が境界となり、現熱海市泉地区の伊豆 国編入が決まりました。

近世における人々の暮らしや産業、国境の定め方を知るうえで貴重な歴史的資料です。

Name: Genroku jusan-nen ju-gatsu Izusan Gongen-ryo to Odawara-han to no sakai ron ni tsuite no Bakufu no Saikyojo, "Ancient Document 「Sanction of Boundary line between Izusangongen and Odawara domain on Oct.1700」"

Designated Cultural Property (one Ancient document)

Location: Chuo 2-2-1, Yugawara (C/O Yugawara Town Office)

Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004 by Yugawara Town

Dimension: Width 2m33cm Hight1m40cm Drawing made on Oct. 1700

Knowing how the land boundaries are marked is important historically. Farmers in Izugongen prosecuted farmers in Odawara for intruding on his territory, because he dug out a stone from his Izugongen domain. So, the boundary line was decided by an official drawing, during the trial between Izusan and Atami. The decision was that Chitose River became the boundary between Sagami and Izu, Izumi(Atami), was then also included into Izu territory.

## 37 吉浜柏坂の道標

#### 町指定 歴史資料



種 別 歴史資料

員 数 2 基

所在地 湯河原町吉浜4番地の口地先

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規 模 角柱形

碑高 81cm 碑幅 33cm 碑厚 33cm 板碑形 (板状自然石)

碑高 66cm 碑幅 33cm 碑厚 11cm

年 代 江戸時代(推定)

この道標は、吉浜の通称「茶屋道(ちゃやみち)」の入口にあります。 「茶屋道」は江戸時代に脇街道として位置付けられた「根府川通(往 還)」の一部であり、俗に「熱海道」または「小田原道」と呼ばれて います。このあたりが「茶屋道」と呼ばれるのは、坂の上に茶店があり旅人が休息したことに由来します。茶屋のあった所は、海岸の眺めがよく、また、福浦の龍宮岩なども一望できたと思われます。昔は一部が階段だったといいます。

この道標は、当初設置された場所からあまり変わってないと推測されます。江戸時代のこの地域の交通や人々の生活を知る上から歴史的な史料価値が高いものです。

Name: Yoshihama Kashiwa-zaka no michishirube, "Signpost on

Yoshihama Kashiwa Slope"

Designated Cultural Property (two historical stone monuments)

Location: 4 Yoshihama, Yugawara

Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004 by

Yugawara Town

Prism shape dimension:

Height 81cm Width 33cm Depth 33cm

Plate shape dimension:

Height 66cm Width 33cm Depth 11cm

Constructed during Edo period (estimated)

This sign post can be seen at the entrance of Chayamichi, which is a side road also called Atami street or Odawara street. It leads out from another side road, "Nebukawa street". The sign post is historically important, as it kept records of traffic conditions during the Edo period which are still preserved today.

# 38 鍛冶屋鹿島踊り

## 町指定 無形民俗文化財



種 別 無形民俗文化財

所在地 湯河原町鍛冶屋

指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

保存者 鍛冶屋鹿島踊り保存会

鹿島踊りは小田原市石橋から相模湾沿岸を西に湯河原まで10ヶ所、 静岡県は伊豆半島東岸、東伊豆町北川(ほっかわ)まで12ヶ所、合せて 22ヶ所で踊られていたものが、戦後湯河原町では福浦と門川が廃絶、 現在は吉浜と鍛冶屋の2ヶ所のみとなりました。22ヶ所とは、小田原 市石橋・米神・根府川・江の浦、真鶴町岩・真鶴、湯河原町福浦・吉 浜・門川・鍛冶屋、熱海市西山町・初島・上多賀・下多賀・網代、伊 東市宇佐美八幡・宇佐美初津・湯川・新井・川奈・富戸・東伊豆町北 川でした。

踊りの起源は、古代たたら製鉄に関連付けられると考えられます。

また、江戸城築城に関わる石材産出の無事とそれを輸送する海上輸送 の安全祈願にも関係すると思われます。

鍛冶屋の鹿島踊りは、総勢25人で踊られ、その内、役持ちと呼ばれる歌上げ役2人、鉦(かね)役2人、太鼓役1人、黄金柄杓(こがねびしゃく)役1人、三日月役1人と踊り役の計18人で構成され、この他に4人の警護役が加わります。

毎年4月の五郎神社の例大祭には、五郎神社や鍛冶屋会館などで踊られます。他の伝承地では、神社のほかに海岸で海に向かって、あるいは村境まで出向いて踊るなど、その地域によって若干の違いがあります。海から隔たっているこの地域の鹿島踊りは、踊り場所も他の地域とは異なった特色が伝承されています。

Name: Kajiya Kashima odori, "Kashima Dance at Kajiya"

Designated Intangible Folk Cultural Property

Location: Kajiya area, Yugawara

Conservator: Preservation Society of Kajiya Kashima Dance

Designated as Intangible Folk Cultural Property on

1st Jan. 2004 by Yugawara Town

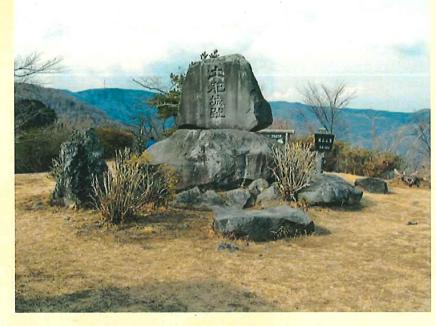
It is said, that Kashima Dance was based on the ancient iron and steel making process, *Tatara*. It consists of a total of 25 dancers and can be seen at the dance festival in April. This dance is different from other traditional dances because it's inland and not near the ocean.

## 39

## と い じょうし ど い しろやま 土肥城址(土肥城山)

町指定

史 跡



種別史跡

員数 1地域

所在地 湯河原町城堀401番地他

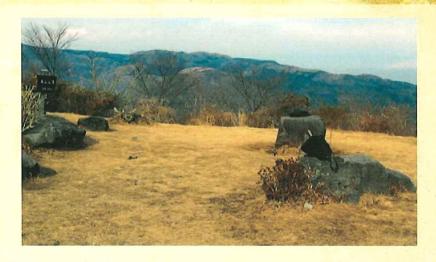
指 定 町指定文化財 平成16年1月1日

規模連郭状尾根城 全長 約390m

年 代 室町時代~戦国時代

土肥城址は、箱根外輪山の主峰大観山から相模湾に向って下降する 尾根の中腹にあり、その西寄りの山裾には、土肥館跡と考えられるJ R湯河原駅付近が位置しています。

城址は、連郭式の城郭で全長は六連郭部分で約240m、さらに第六 郭から遠構(とわがまえ)と考えられる堀切までは約150mあり、全長は約 390mに及びます。



主郭から第六郭までは、約35mの高低差を利用して階段状に郭を連結させ急峻で要害性の高い連郭状尾根城としての特徴を示しています。中世における城郭の発展を知る上からも重要であり、後世により良い保存状態で伝えるべき史跡であると考えられます。

Name: Doi-jōshi (Doi-Shiroyama), "Doi Castle ruins" Historic remains Designated Cultural Property (historic remains) Location: 401 Shirohori area, Yugawara Designated as Cultural Property on 1st Jan. 2004 by Yugawara Town

This castle was constructed sometime between the Muromachi and Sengoku period(around1336~1615). It was built in the *Renkaku* style and sits on a mountain ridge at 390m. The castle ruins are located on the side of Mt.Daikanzan facing Sagami Bay. There is a 35m elevation difference within the castle, so the rooms were connected by a series of stairs. On the west side of the castle it faces present day Yugawara JR station, as well as the ruins of Doi's house.

# 40 素鷲神社飾り屋台

町指定 有形民俗文化財



種 別 有形民俗文化財

員 数 2 基

所在地 湯河原町吉浜1047番地 (素鵞神社)

指 定 町指定文化財 平成27年1月1日

形 状 置き屋台 材 質 木材 欅 (けやき)

規模 高さ3m50cm、横3m20cm、幅2m60cm 高さ3m70cm、横3m30cm、幅2m70cm

年代不詳(江戸時代、天保13年前後)

この屋台は、飾り屋台と呼ばれているように、町内を引き回すものではなく、祭礼のたびに組み立て一定の場所に据え置き、中でお囃子を演ずるものです。

山車彫刻は、江戸の後藤三治郎橘恒俊(ごとうさんじろうたちばなつねとし)・安 房の国の武志伊八郎信由(たけいはちろうのぶよし)等の手によるものです。 素鷲神社の飾り屋台は、県の無形民俗文化財・国選択の無形民俗文化



財に指定されている「鹿島踊」と共に、江戸時代における湯河原地域の 庶民の経済力並びに信仰習俗の一端をうかがい知ることができます。

Name: Suga *Jinja* kazari *yatai*, "Decorated Festival Float of Suga Shrine"

Designated Tangible Folk Cultural Property (two floats)

Location: 1047 Yoshihama, Yugawara

Designated as Tangible Folk Cultural Property on

1st Jan. 2015 by Yugawara Town

Construction style of Float: Made out of Zelkova (Japanese wood)

Dimension:

Height 3m50cm Side 3m20cm Width 2m60cm Height 3m70cm Side 3m30cm Width 2m70cm Constructed around 1842 during Edo period

This festival float is not to be pulled but placed on ground or on a base and just for playing festival music inside.

The frames can be taken apart each time after the festival.

This float and Kashima dance show us faith and economic strength of Yugawara people in Edo period.

# ははま かしまおどり 吉浜の鹿島踊

国選択・県指定 無形民俗文化財



種 別 無形民俗文化財

所在地 湯河原町吉浜

保存者 吉浜素鷲神社鹿島踊保存会

指 定 県指定無形民俗文化財 昭和29年7月17日 国選択無形民俗文化財 昭和46年11月11日

鹿島踊りは小田原市石橋から相模湾沿岸を西に湯河原まで10ヶ所、 静岡県は伊豆半島東岸、東伊豆町北川(ほっかわ)まで12ヶ所、合せて 22ヶ所で踊られていたものが、戦後湯河原町では福浦と門川が廃絶、 現在は吉浜と鍛冶屋の2ヶ所のみとなりました。

踊られる場所は、本来、神社の例祭の他は海辺で海に向かって、あるいは村境まで出向いて踊るものでした。

踊りの起源は、古代たたら製鉄に関するものでしたが、ここでは疫

病の送り払い、大漁と豊作、湯河原地方特有の産業である石材産出の 無事とそれを輸送する海上安全にありました。

踊手は白丁(はくちょう) を着て烏帽子(えぼし) をかぶり、太鼓役1人、鉦(かね) 役2人、黄金柄杓(こがねびしゃく) 役1人、日形(ひがた) 役1人、月形(つきがた) 役1人、ほか踊りの計25人、土地の青年で構成されます。この他に4人の警護役が加わります。

吉浜素鷺神社の鹿島踊りはこの地方独特の形態をした踊りで、古い形を比較的良好な状態で今に継承されているもので、それは全国でも珍しく、国選択と県指定の無形民俗文化財になっています。毎年8月1日を例祭としています。

Name: Yoshihama no Kashima *odori*, "Kashima Dance at Yoshihama"

Designated Intangible Folk Cultural Property

Location: Yoshihama Area, Yugawara

Conservator: Preservation Society of Yoshihama Kashima Dance Designated as Intangible Folk Cultural Property on 17th July 1954 by Kanagawa Prefecture

Also Selected as Intangible Folk Cultural Property on 11th Nov. 1971 by Japanese Government

This is a dance festival held every year on August 1st.

Originally, villagers danced on the beach facing the ocean, or to the boundary between villages. Its roots are in *Tatara*, ancient iron making. However, in Yoshihama, people danced for workers safely in stone mining, transportation and shipment of the stone, safety from epidemics, success in catching large quantities of fish and an

abundant harvest.

Today, about 25 local villagers still wear white *kimonos* and traditional hats to dance. The style and characteristics of this dance are roughly the same as its original style. It's quite rare for ancient traditions to last this long.